

仏教壮年会たより

『恵』

第14号

2025年1月1日

年頭の挨拶



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

平素は仏教壮年会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、バーベキューの集いを例年通り7月に、1日研修も9月に開催させて頂きました。両日ともにたくさんの方にご参加頂き、皆さんと共に楽しく過ごさせていただきました。来年度もこのような計画を立てていきたいと考えておりますので、ご参加よろしくお願ひいたします。

昨年は連研、中央教修に参加させて頂きました。たくさんの方と会い、楽しく過ごさせて頂きました。今年も何人の方に会えるか、どれだけ会話ができるか楽しみです。縁（出会い）を大切にし、またその縁（出会い）が心のゆとりを生み出しているように思われます。

昨年11月にさだまさしさんのコンサートを聞きに行き、「いのちの理由」という歌を聞かせてもらいました。連研や中央教修において『なんで生まれてきたのか』と問われるようになりました。自分なりに考えてみますか難しくて正解はありません。みなさんも一度考えてみてはどうでしょう。

最後になりましたが皆さまのご健勝とご多幸を念じ申し上げます。合掌 会長 釋智明

2025

活動報告

9月21日例会及び一日研修。10月13日まき刈りの出合い。11月9日には例会。12月の報恩講には役員にて歌の披露。年末には除夜の鐘と活動を行ってまいりました。別項にて内容の報告を掲載しましたが、一日研修では大阪御堂筋の名づけの元となった北御堂（津村別院）を訪れました。浄土真宗本願寺が大阪の街に施した影響の大きさに驚くとともに、時代に翻弄された歴史を垣間見ることができました。

11月の例会では正信偈のお勤めをし、横山(明)副会長による正信偈の解説を行いました。普段呪文のようにしか見えない正信偈も、その意味さえ分かればもっと身近に感じもらえるのではないかとのことでした。今回は冒頭の16行のみの解説でした。今後も機会があれば続きをとのことでしたので是非例会にご参加ください。

報恩講では数年前からご院さんと役員で歌を披露しています。決して上手くはありませんが、少しでも楽しい場をと毎年選曲に悩み、練習を重ねています。歌はもちろんキーボード、ギターなどを弾ける方、一緒にいかがですか。



メルカットレイト開拓ナナバハド

特別コラム 法名について (釋常見)

皆さんはもう法名をいただかれていますか。浄土真宗では「戒名」ではなく「法名」をお釈迦様のお弟子になった証としてご門主より授かります。また「法名」は本来亡くなった時に授かるものではなく、生前に仏弟子となったことの名告りとして授かるので、本来門徒はすべからく帰敬式を受けいただくことが大切です。是非帰敬式を受式されることをお勧めします。詳しくはお寺にお問い合わせください。

執筆者(役員)法名

横山(浩) 釋智明 (ちみょう)

横山(利) 釋行精 (ぎょうしょう)

横山(明) 釋常見 (じょうけん)

法名は「釋〇〇」という風に2文字です。「釋」はお釈迦様のことでその下に2文字が名付けられます。よく生前の名前から1文字、との認識が多いようですが、それは亡くなられた折に所属寺の住職に授けていただいたか、帰敬式において内願（希望の文字を申請する）した場合です。普通は本山にてお経の中から2文字選んで授けられます。なおこのたよりでは執筆者（役員）名を法名で紹介しております。俗名と合わせて紹介させていただきます。

3月22日は総会です。一年の活動を決める重要な会ですので、皆さんの参加をお願いします。

大阪一日研修・津村別院参拝

釋融法

彼岸花のまだ咲かぬ9月21日（土）に仏教壮年会一日研修として、本願寺津村別院（北御堂）に参拝いたしました。津村別院には存仁寺のご次男、慶尚さんがお勤めです。

仏事の行事ではありますが広く参加者を募り、総代さん、婦人会さん、そして今回は笑いヨガの加藤先生にも特別参加いただきました。

本願寺津村別院は正面の石段を上ると右側に親鸞聖人像、左側に蓮如上人像が参拝者を出迎えてくれます。本堂では慶尚さんの案内で参拝をいたしました。本堂はお彼岸の法要で多くの門徒で賑わっていました。また付属のミュージアムでは大阪というが本願寺を基に発展をしていったことなどを学びました。昼食の後は聖徳太子建立の四天王寺を参拝。この日は「大師会」で露店が出て賑わっていましたので、ここではそれぞれに自由に参拝いたしました。帰路のバスの中では参加者より感想を聞かせていただきました。仏事会員だけではなく参拝いただいた皆様との意見交流もあり、有意義な研修であったと思います。



門徒推進員中央教修 受講

釋行精

昨年11月1日より3泊4日の日程で、本願寺で開催されました第288回門徒推進員中央教修に壮年会の横山会長他2名が参加いたしました。北海道から九州まで、地元の連研（門徒推進員養成連続研修会）を受講した門徒40名の中に入り、門徒推進員の生き方等を学んできました。



先輩門徒推進員に囲まれて

それれ6・7名の班に分かれてスタッフの僧侶2・3名とともに話し合い法座を主体に門徒推進員として、念佛者としての生き方等を学びました。法座のテーマは「あい」「私の宗教」「浄土 救いと歩み」「差別 御同朋の社会とは」「念佛者の生き方」の5つで忌憚のない意見を交わし合いました。テーマから意見が逸れると、スタッフに導いていただいてそれぞれの意見の相違はあるものの、最後には浄土真宗の教えに沿って生きていくことを確認し合いました。

教修3日目は、連研と中央教修を通じて、あるいはこれまでの聞法の中でわからなかったこと等を相談する示談（じだん）の場があり、参加者たちは一人ずつスタッフの僧侶と向き合いそれぞれの意見や悩み等を相談しました。この夜には阿弥陀様を拝して一人ずつ門徒推進員としての決意表明を行いました。真っ暗闇の中の厳粛な表明式で、参加者たちはそれぞれ考えてきた決意を力強く阿弥陀様に述べていました。最終日は、全体会で教修に参加した感想や意見を語り合い、懇親会で親交を深めました。

以下は他2名の受講者の感想です。

これも何かの縁、気の合う仲間、まるで旧知の人たちと再会したような出会い、楽しく過ごさせてもらつた4日間でした。

釋智明



一所懸命、時には苦しくなるほど真剣に考え、悩みを打ち明けあった話し合い法座。そして共に学んだ同班の人たち、スタッフはかけがえのない一生の宝物です。

釋常見

編集後記 ◆後期の行事も盛りだくさんでした。◆楽しく行われた9月の一日研修は、皆さんとても良かったと話されています。記事にも大きく取り上げさせていただきました。◆連研終了の壮年会役員3名が本山の門徒推進員中央教修に参加しました。全国各地からの門徒とともに教修を受講し、門徒推進員としてスタートを切りました。◆報恩講の夜の部では壮年会役員他がコーラス、ギター演奏等を行い、楽しいひと時を過ごしております。◆新年も各種行事、例会への皆さんの参加を心待ちにしています。令和7年もよろしくお願ひいたします。